

動き出した

「新・名城理工」

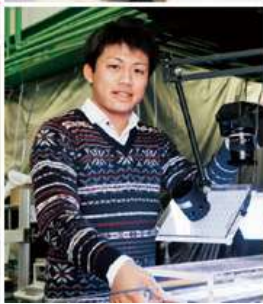
2013年4月、応用化学科とメカトロニクス工学科の2学科を新設し、機械工学科(旧機械システム工学科)と社会基盤デザイン工学科(旧建設システム工学科)の2学科の名称変更とリニューアルを実施。

さらに、その他の学科を含む全学科で、1年次から専門分野にふれ、4年間にわたって学びを掘り下げるカリキュラム体制へと一新しました。

新しく研究拠点となる「研究実験棟II」も2013年3月に完成し、

これからの時代にふさわしい理工学部へと進化しました。

5月31日に開所イベントが行われた「自然災害リスク軽減研究センター」と、新設の2学科の紹介から、動き出した「新・名城理工」を感じ取ってください。





自然災害リスク 軽減研究センターの 最新実験施設が始動

報道関係者に
公開された
実験施設

名

名城大学自然災害リスク軽減研究センター
(代表・小高猛司理工学部教授)の最新実
験施設が3月に竣工した研究実験棟Ⅱに

配備され、同センターの研究実験が本格的に動き出
ています。同センターが推進する「21世紀型自然災害
のリスク軽減に関するプロジェクト」(文部科学省の
2012年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事
業)では、都市域での震災や集中豪雨に伴う流域圏の
水害・土砂災害など、現代社会が直面している自然災
害を「21世紀型自然災害」と位置づけ、そのリスクを適
正に評価し、軽減をはかる方策の提案を目指します。

実験施設は5月17日、報道関係者にお披露目され
るとともに、5月31日にはセンター開所イベントが開
催され、一般参加者にも公開されました。同日、名城
ホールで開催された開所記念特別講演会に先立ち小
林明発副学長は、「東日本大震災の発生以来、自然災
害に対しては国をあげての備えが求められています。
名城大学自然災害リスク軽減研究センターでは理工
学部の社会基盤デザイン工学科、環境創造学科、建築
学科の3学科に都市情報学部も加わり、学部学科の
垣根を越え、本学の総力をあげて、自然災害リスク軽
減の研究に取り組んでいきます」とあいさつしました。

- 1 **大型構造実験システム**
活用 連動型巨大地震に対する
橋梁など土木構造物の安全性と
修復性の向上に関する研究。
- 2 **三次元地震波振動台**
活用 大空間構造物の耐震
安全性評価による震災リスクの
軽減の研究。
- 3 **急勾配水路**
活用 豪雨や水災事象の
発生機構とリスク軽減方策に
関する研究。
- 4 **動的中型三軸試験装置**
活用 水工学と地盤工学の連携に
よる沿岸域低地帯の自然災害
リスク軽減の研究で活用。



4



3



2